

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和5年度
意見交換会(第3回)

宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2024年2月5日

1. 今年度の企画（実践の場等）の実施報告

- ① エクスカーションプログラムの試行結果報告
- ② 宮城県松島高等学校観光科との取組報告
- ③ 「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラムの開催報告

2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

3. 次年度の取組に関する意見交換（論点②）

● ①エクスカーションプログラムの試行結果報告

- 2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとらえ、R4年度より宮城県沿岸部のエクスカーションプログラムを検討。

R4年度：行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。

今年度：「エクスカーションプログラム」の試行の年度と位置づけ、プログラムのブラッシュアップや会議等の主催団体との調整に取り組み、2本のプログラム、訪日外国人向けモニタリングツアー1本を試行。

【今年度の取組方針（第1回意見交換会資料より抜粋）】

- ・ エクスカーションプログラムの具体化・商品化を目指し、
- ・ 副代表団体が行っている取組とも連携し、プログラムのコンテンツと出口をしっかりと固めていく

⇒ 今年度は「エクスカーションプログラム」の試行の年度とする。

- 副代表団体が行っている取組との連携
 - ✓ 副代表団体が関わるMICE等を対象とした試行実施
※ 今年度、5～10回程度の試行実施が可能か
- プログラムコンテンツ・ツアー内容の深堀り
 - ✓ 昨年度のエクスカーションプログラムに関係いただいた旅行会社、現地ガイド等とも連携して、モデルコースを検討
 - ✓ MICE等の主催団体と調整の上、実際に販売する商品ツアーとして具体化
- 最終的なプログラム出口の明確化
 - ⇒ 当面の出口として、大阪・関西万博開催時のプログラム化を目指す

①エクスカーションプログラムの試行結果報告（実施に向けた調整結果）

（1）受注型企画旅行（仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム、東北大大学の御協力により実現）

開催日時	会議等主催団体	会議等名称	料金	参加者属性	参加人数	旅程
12/1（金） 8:30～15:15	仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム	支店長・幹部研修	¥15,800	支店長・幹部	7名	仙台駅＝ハーバーハウスかなめ＝キリンビール仙台工場＝三井アウトレットパーク仙台港＝仙台駅
12/8（金） 12:00～17:00	東北大大学	第13回 巨大津波災害に関する合同研究集会 巡検プログラム	¥8,000	教員・学生・研究者	26名	東北大大学＝キリンビール仙台工場＝荒浜小学校＝仙台駅

（2）募集型企画旅行（最少催行人数に達せず不催行）⇒（3）のモニタリングツアーを実施

募集日時	周知期間	主な声掛け先	募集人数 (最少催行人数)	料金	旅程
11/25（土）	10/31～11/19	東北外語観光専門学校	20名（15名）	¥19,800 (日英通訳付き)	仙台駅＝門脇小学校＝ハーバーハウスかなめ（追込み漁・牡蠣むき・地元特産物ランチ）＝仙台うみの杜水族館（ガイド付きバックヤードツアー）＝仙台駅
12/3（日）	10/26～11/27	旅行エージェント（ツーリズムEXPOジャパンでの配布等）内陸部のNPO職員	20名（15名）	¥17,800	

（3）訪日外国人向けモニタリングツアー

開催日時	参加者	旅程
12/19（火）	台湾・タイ・英語圏の通訳ガイド3名	仙台駅＝門脇小学校＝ハーバーハウスかなめ（追込み漁・牡蠣むき・地元特産物ランチ）＝仙台うみの杜水族館（ガイド付きバックヤードツアー）＝仙台駅

（4）会議主催者と調整を行ったが断念

上記のほか、2つの県内の会議等に対して、エクスカーションプログラムの打診を行ったが、調整の結果、事前告知不可とのことであり断念

①エクスカーションプログラムの試行結果報告

- 実現したエクスカーションプログラムについては、これまでの意見交換会の議論を踏まえ、以下2つの旅程をベースに、会議等の主催者側と対応可能時間や予算等を含め、行程を調整。(具体的な行程は前頁又は参考資料参照)
- 訪日外国人向けモニタリングツアーについては、プログラムAをベースに開催。
- 行程にはスルーガイドが同行。

メインターゲット層は幅広く旅行者層

メインターゲット層は行政・教育関係や企業管理職等

プログラムA

門脇小学校で防災の大切さを学び、被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る

石巻市震災遺構 門脇小学校

震災の基本的な情報を知る

昼食：牡蠣メニュー
+地元産白ワインのペアリング

宮城県産牡蠣や地元産ワインなど、味覚面から水産文化を知る

地元漁師と行く牡蠣棚見学

牡蠣をテーマに、漁業体験等を通じて、水産文化や水産業復興の姿を知る

うみの杜水族館

水族館が実施する水産業を守るためにの取組を知る

被災を乗り越えて復活を遂げた牡蠣養殖の復活のストーリーを知る

プログラムB

宮城県沿岸地域の被災地域における防災・減災と賑わい創出への取り組み

震災遺構仙台市立荒浜小学校

震災の基本的な情報や防災・減災の知識を得る

仙台市立高砂中学校

「高砂中学校防災ノート」など、「教育と防災」の視点から防災に関する取組を学ぶ

キリンビール仙台工場

企業BCPと産業復興の取組を知る

「防災」にスポットをあて、
教育と防災・減災／企業BCPの取組から学びを得る

②宮城県松島高等学校観光科との取組報告

- 第1回意見交換会では、大阪・関西万博を視野に入れると、**個人旅行客等も見越して、東北地方の魅力があるスポット・コンテンツの磨き上げや効果的な情報発信を行うことが重要**という指摘あり。
- このため、県内唯一の観光科を持つ宮城県立松島高等学校の学生7名に参加いただき、地域内外の誰かに向けた**招待状 (TOHOKU Waltz & Invitation Card) 作成のワークショップ**を開催。招待状やモデルコースを作成。

<ワークショップの流れ>

2023.11.9

第1回WS

- ・レクチャー（人に魅力を伝える方法など）
- ・エピソードの書き出し

宿題：エピソードシートの作成

Episode Sheet		
地名	人物	エピソード概要
年齢	性別	年齢層
職業	性別	性別
備考		
参考文献		

共感を生み出すために
・誰にでも経験がありそうな
シチュエーション
・コミュニケーションの存在
・ポジティブであること
という3点を意識

2023.12.1

第2回WS

- ・エピソードシートのブラッシュアップ
- ・紙面デザイン（写真の選択、文書等の配置）



2023.12.19

第3回WS

- ・エピソードの校閲
- ・コース作成



(参考) TOHOKU Waltz & Invitationのタイトルに込めた意味

- ワルツは4分の3拍子の旋回舞曲。語源はドイツ語のwaltzen「回転する」。
- 施設等の客観的な紹介ではなく、**自身の体験や震災からの復興の物語などのストーリーを主観的に伝える**ことで、**共感に訴え、東北地方に訪れたい気持ち**を醸起。
- 一度、東北地方に訪れた方が、招待状を使って、**円を描くように様々なスポットを巡ること**を目指す。

②宮城県松島高等学校観光科との取組報告

<TOHOKU Waltz & Invitation Card 制作物> ※詳細は資料2-6参照



【紹介文の例：秋保大滝】

ある日、私と父親2人だけが休みの日があつた。せっかく2人だけなのでどこかに行くことになり、秋保大滝へ行くことに決めた。車の中では学校のことや、今後の進路について話していく、あまり楽しいとは感じなかった。そして気まずい感じの中、秋保大滝に着いた。

滝を間近で見るため下のほうまで降りていく。滝つぼまでは段差が大きい階段を降りていくのだが、心なしか父親が急いでいるように見えた。どんどん近づくにつれ、滝の音が大きくなっていく。

滝つぼの近くまで来た。秋保大滝から感じられる自然の力を肌で感じることができて私は興奮していた。

だが一番興奮していたのは、父親のほうである。普段はあまり写真を撮ろうとは言わないのに、その時は父親のほうから写真を撮ろうと誘ってきた。その時私は少し照れくさかったがとてもうれしかった。

情景の想起

共感を生む体験

③「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラムの開催結果

タイトル	「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム ～未来につなぐ 東北のものがたり～	開催日時	12/26（火）13:30～16:00
		開催場所	東北大学片平さくらホール2階会議室(仙台市)
企画趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 「点」として発信されていることが多い観光コンテンツについて、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝え、人と人の、人と場所のつながりを生み出す「面」としてのコンテンツへと磨き上げるためにどのようにすればよいのか、MICE関係者や将来の観光産業の担い手とヴィジョンを共有するためのフォーラムを開催 フォーラムの中では、今年度を「具体化・商品化に向けた試行の年度」と位置づけ取組んできた、宮城県におけるエクスカーションプログラムの実施状況を報告するとともに、東北地方に人（特に個人旅行者）を呼び込むコンテンツの情報発信の在り方を探るべく、県内高校と連携して実施した招待状（TOHOKU Waltz & Invitation Card）作成ワークショップの事例を紹介 		
参加者数	56名		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 開会（開会挨拶／開催趣旨説明） 基調講演 ～宮城県における観光・震災復興の現状～ 登壇者：宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長 樋口 保 氏 事業紹介 ～宮城県内エクスカーションプログラムについて～ 登壇者：株式会社たびむすび代表取締役 稲葉 雅子 氏／協議会事務局 パネルディスカッション ～みやぎから届け！未来のツーリズムを支えるものがたりの作りかた～ ファシリテーター：JTB総合研究所客員研究員 後藤 直哉 氏 パネリスト：JTB総合研究所主席研究員 アドベンチャーツーリズム推進プロジェクト長 山下 真輝 氏 宮城県観光連盟事務局次長・ みやぎ教育旅行等コーディネート支援センターセンター長 三浦 均 氏 株式会社みらい旅くらぶ代表取締役 高谷 尚嗣 氏 株式会社たびむすび代表取締役 稲葉 雅子 氏 宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課長 樋口 保 氏 事例紹介 宮城県松島高等学校観光科との連携による取組 ゲスト：宮城県松島高等学校観光科有志の皆様 閉会（閉会挨拶） 		
	<p>今年度は以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> エクスカーションプログラム2本 訪日外国人向けモニタリングツアー1本 		
	<p>11月～12月にかけて、松島高校の学生7名に 参加いただき、地域内外の誰かに向けた招待状 (TOHOKU Waltz & Invitation Card) 作成 のWSを開催。</p>		

③「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラムの開催結果

<p>基調講演 ～宮城県における観光・震災復興の現状～</p> <p>登壇者： 宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課長 樋口 保氏</p>	<ul style="list-style-type: none">震災後、観光復興の取組が進められた結果、宮城県の観光入込数は平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新していたこと一方で、「観光業は風に左右される」と言葉がある中で、特に東北においては、「風化」と「風評」という風と戦っていかないといけないステージにあることそのような中で、県内の観光資源を活かして宮城・東北に来ていただき、さらに被災地や伝承施設・震災遺構に訪れていただくような取組を進めることが重要であること教育旅行の誘致、企業向け研修の構築に向けた宮城県の取組無関心層へのアプローチなど個人旅行で沿岸部を訪問していただく際の課題・取組事例等について紹介。
<p>事業紹介（宮城県内 E Pについて）</p> <p>登壇者： 株式会社たびむすび代表 取締役 稲葉 雅子 氏／協議会事務局</p>	<ul style="list-style-type: none">事務局よりエクスカーションプログラムの実施状況を紹介稻葉さんから、ガイドとして意識した点として、以下のようなことを紹介。 ①訪れる方の属性を事前に把握しておくこと、 ②把握した訪れる方の属性・知識量に合わせて、資料も活用しつつ、東北地方や被災地、震災についての知識を事前にインプットすること、 ③次に訪問する場所での体験ストーリーを補完する説明を行うこと、また、ストーリー性をもったツアーの企画のためには、ツアーを企画する方が最初の「ものがたりびと」として、伝えたいストーリーを企画段階で考え、関係者間で共有していくことが重要とご指摘いただく。



③「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラムの開催結果

パネルディスカッション
～みやぎから届け！未来
のツーリズムを支えるも
のがたりの作りかた～

パネリスト：p7・参考資
料参照

【インプットトーク：「ものがたりをつなぐストーリーテリング～スルーガイドの必要性～」（JTB総合研究所・山下氏）】

- ・来訪者は目に見える観光資源だけではなく、地域住民のライフスタイルに興味を持っていること
- ・十勝岳ジオパークでのアドベンチャーツーリズムの事例等の紹介
- ・その土地の環境、生活や文化を知るために導入となるストーリーが重要であり、来訪者が求める情報と地域の人々が伝えたいストーリーとのギャップを埋めるためには、スルーガイドが重要であること等をご指摘いただく。

【ディスカッション①：スルーガイドの必要性】

- ・宮城県では今までスルーガイドの育成に取組まれてなかつたが、オーダーメイドで行程を作り、ストーリー性をもって案内することは、来訪者の経験価値を高めるために可能性が大きいと考えられること
- ・教育旅行の分野では、来放者側からの行きたい・学びたいという考えと受け入れ側の来て欲しい・伝えたいという思いを調整する役割をみやぎ教育旅行等コーディネート支援センターが果たしていること
- ・ガイドを行う難しさと企画する難しさがある中、訪問者に何をどう伝えていったらいいか、企画者やガイドも含めて十分にコミュニケーションをとることが重要であること
- ・スポットだけではなく複数の体験・訪問でストーリーを伝えるためには、シンプルではあるが、それぞれの場所でのガイディング内容をお互いが体験することなどが有効であること

【ディスカッション②：来訪者と地域が、及び事業者どうしが繋がるための方策】

- ・復興ということを伝える際には、震災当時の話だけではなく、今に至るまでの話を説明者自身が理解すること（そのために日々学ぶこと）が重要であること
- ・コーディネーター側の視点としては、何が資源なのかを把握すること、訪問者の情報（教育旅行で言えば、生徒に学ばせたいことなど）をツアーに関わる方々と共有することが重要であること
- ・受け入れ側の地域では、1人1人顔の見える関係を作り、観光分野の方が被災の状況の話ができる、反対に語り部が宮城の観光の魅力も話せるという状況になっていくことが求められること
- ・広島でのツーリズム協議会での事例として、外国人の旅行客の興味関心は、過去の原子爆弾の話が今生きてる人たちにどういう風に繋がってるかということであり、ガイドとしても必ず未来の話をしてこと

【事例紹介：宮城県松島高等学校観光科との連携による取組】

- ・復興庁より取組内容を紹介
- ・生徒の皆様から、以下のような感想をいただく。
「自身の思い出を思い出すのに苦労ましたが、思ったより色々な思い出があった。作成にあたって両親に相談し、仲が深まった。宮城に来る方にも実際に足を運んで体験してほしい」
「家族との思い出が一番強いエピソードを選んだ。大変だったけど、やってみると楽しかった。他の県の人にも来て同じような体験をしてほしい」

● 2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

論点 1

本年度取り組んだ

- ① エクスカーションプログラムの試行
- ② 宮城県松島高等学校観光科との取組
- ③ 「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム開催

のそれぞれについて、これまでの報告等を踏まえ、良かった点／反省点・改善点等について、ご意見いただきたい。

● 2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

<事務局・運営側としての振り返り①>

① エクスカーションプログラムの試行

✓ プログラム催行の難しさ

- ・会議主催者（及び主催者から委託された発地旅行会社等）との調整の難しさ
 - 事前周知さえかなわず、断念したケースの存在
 - 「宮城県で会議・学会があつたらエクスカーションを行うのが当然」という機運を醸成する必要性
- ・団体旅行としての価値をどう一般層に理解してもらうのか
 - 金額面の高さなどがネックとなり、最少催行人数に達しない・調整の中で行程が短縮される
 - 団体旅行として参加する価値のあるコンテンツへの磨き上げ・アピールの必要性

✓ コース組の難しさ

- ・付加価値のあるコース組を行うための体制
 - 旅行会社、訪問スポットの事業者、ガイドが協働してコンテンツを磨き上げる体制の必要性
- ・震災・復興色と観光要素のバランス
 - 観光地としての魅力により人を呼び込み、伝承施設に立ち寄る形が理想か

✓ 今後の展望・発展

- ・今年度の目標である大阪・関西万博開催時のプログラム化
 - 今回協力いただいた現地旅行会社等にアプローチし、さらにコンセプトや行程の磨き上げを行ってもらい、万博の観光ポータルサイト（来場者が全国各地の旅行商品の検索から予約や決済までできるサイト）へ登録してもらうよう働きかけていく
- ・ストーリーを伝えるスルーガイドの確保・育成
 - ガイドの際の諸々の工夫、案内時に補完するための資料等の横展開などは可能か

● 2. 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換（論点①）

<事務局・運営側としての振り返り②>

② 宮城県松島高等学校観光科との取組

✓ 高校生と協力した取組

- ・親や家族とのエピソードなど広い世代に共感をもってもらうことのできるエピソードの発掘
- ・学生にとって、情報発信等の学びの機会の提供につながった
- ・「国内外に情報を発信する」という点で、紹介コンテンツの“幅”的な少なさは課題
→ 今回の取組では、インタビュー先に親や先生等の大人を絡ませることで緩和

✓ 今後の展望・発展

- ・更なる招待状の作成
 - 取組主体をどうするのか
 - 復興にまつわるストーリーをどのように取り入れていくのか
 - デザイン、キャッチコピーなどクリエイティブな部分にどこまでのレベルを求めるのか
- ・インバウンドを意識した場合の多言語化、情報発信
 - 成果物について、各団体の取組とも連携した広報の可能性はないか
- ・被災3県でのプログラムへの発展性

③ 「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム開催

✓ 観光関連事業者の機運醸成

- ・「東北復興ツーリズムネットワーク」の設立など、復興ツーリズムの機運が高まっておりニーズは高い
→ 個別事例の深堀や他地域・自治体での事例など、現地の観光関係業者も様々な情報を求めている

● 3. 次年度の取組に関する意見交換（論点②）

論点 2

昨年度・今年度の取り組みを受けて、以下について議論したい

- ① 次年度の取組をどのように進めていくべきか
- ② その取組みに対して、各団体がどのように連携して対応可能か

R4年度

モニタリングツアーや試行

- ・1本のツアー実施
- ・ツアー参加者による意見交換（行程のブラッシュアップ等に関する意見抽出）

個人旅行客等も見越した効果的な情報発信が必要

- ・更なる深堀が必要
- ・学会などに実装し、評価してもらうことが必要

R5年度

エクスカーションプログラムの具体化・商品化

- ・ストーリー性を重視したコースの検討
- ・2本のツアー、1本のモニタリングツアーの実販売／実施

招待状（TOHOKU Waltz & Invitation Card）作成のワークショップ

- ・松島高校と連携した取組を実施
- ・計10スポットの招待状を作成

事例共有
観光関係者の機運醸成

「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム開催

R6年度

旅行会社主導で
万博観光ポータルサイト
登録に向けて磨き上げ

例えば、

- ・ストーリー性を持ったコース造成の具体化を図るため旅行会社や観光協会向けセミナーの開催
- ・スルーガイドの確保・育成に向けた取組
- ・受入れ側でワンストップで会議主催者側と調整可能な体制の構築

例えば、

- ・更なる招待状を作成
- ・多言語化し、情報発信を強化（副代表団体の取組とも連携）
- ・被災3県にも発展させる

？

例えば、

- ・参加者アンケート等も踏まえたフォーラムの再度開催

R7年度

大阪・関西万博

參考資料

● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/1 (金) 仙台港賑わい創出コンソーシアム支店長・幹部研修 参加者：7名 費用：15,800円/1人



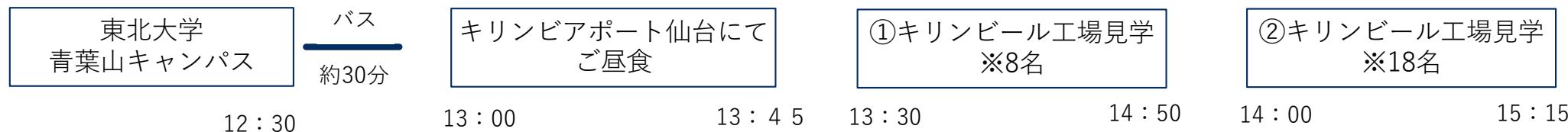
● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/1（金）仙台港賑わい創出コンソーシアム支店長・幹部研修（参加者の声）

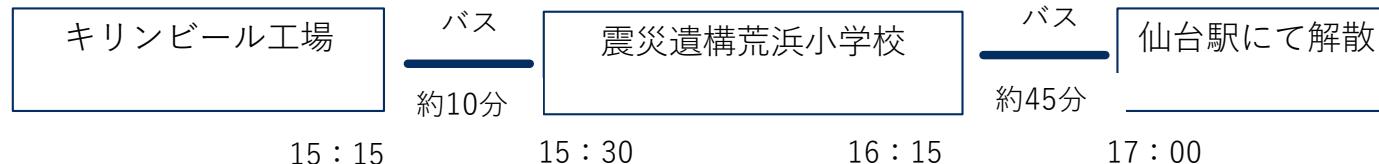
- ・ ツアーを通して復興に触れて頂く際は、現実を見聞きして頂くことは勿論大切ですが、楽しめることも大切と感じました。 **集約した時間の中に学びも楽しさもあった**と思います。
- ・ 震災について、過去のこととして忘れてしまっていること、自分の中で過去のことと終わらせようとしていることに気付きました。 **こうしたツアーが継続されることで、参加者も、企画する方も、震災について改めて思い出したり、話すきっかけになる**と思いました。
- ・ ハーバーハウスかなめでの追込み漁体験や炭火焼きランチは、大変良い企画だと思いますが、**ご主人桜井氏の震災復興や漁業再生に関するお話を聞く時間がもっとあれば良かった**かなと思います。
- ・ 開上～荒浜～七ヶ浜・利府・塩釜・松島・東松島・石巻の動線も是非ご検討下さい
- ・ **スルーガイドが添乗することにより各視察先における産業復興というテーマ、ストーリーを感じることができた。**

● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/8（金）東北大学 第13回 巨大津波災害に関する合同研究集会 巡検プログラム
参加者：26名 費用：8,000円/1人



組み込んだ意図
キリンビール工場での日々の防災に向けた取組や地域と協力した復興の取組を知る



○仙台市立荒浜小学校
2011年3月11日に発生した東日本大震災において、校舎2階まで津波が押し寄せ、大きな被害を受けた仙台市立荒浜小学校。
震災当日、児童や教職員、住民ら320人が避難したその校舎を見学し、東日本大震災の教訓から地域防災の大切さを学ぶ



● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/8（金）東北大学 第13回 巨大津波災害に関する合同研究集会 巡検プログラム（参加者の声）

- もう少し震災の大変だったところも若い世代に伝えた方がいいと思いました
- 参加させていただきありがとうございました。現地を訪れる事で、津波の危険性や復興への取り組みをより感じることができました。大変勉強になりました。
- 地勢や震災後の街づくりなども知ることができた。今後、他の震災遺構や資料館なども見てみたい。
- 東北太平洋沖地震の被害や復興について深く知ることができ、とても満足です。
- 有意義なツアーでした。ありがとうございました。
- 非常にいい機会になりました。スケジュールがタイトでありしっかりと見たり聞いたりができなかつたのが残念です。いろいろ学びがあるツアーでよかったです。ありがとうございました。
- 津波が浸水した平野部での水田耕作などの農業復興の進展が知りたかった。荒浜に元住んでいた人はいまどこに住んでいるのか知りたかった。
- 移動中も資料の配布や、貴重なお話をしていただいたため、より震災に対する知見が深まりました。
- まずは、ツアーの開催・案内をしてくださり、誠にありがとうございました。私は初めて被災地を訪れ、率直に「百聞は一見に如かず」だと感じました。今後機会があれば、もっといろんな震災遺構を巡ったり、勉強したりしたいです。
- キリンのビール工場見学・試飲会も非常に楽しく良い経験でした。なかなかこのような機会はなく、ツアーに参加した特権でした！また、スケジュールの都合上仕方なかったことだと思うのですが、お酒を飲んだ後に小学校を訪れたのは個人的に少し申し訳ない気持ちになりましたが、全体を通して仙台での素敵なもの思い出になりました。ありがとうございました。
- 荒浜地区は以前にも案内していただいたことがあるので、他の地区も案内していただきました。
- キリンビールでの時間配分について改善が望ましいと感じました。（工場側の事情もありなかなか難しいと思いますが、限られた時間での見学の場合、時間配分が最適でないと満足度が下がってしまう可能性があると感じました。）
- キリンビールでは震災当時の対応について特別な講話が聴けるような話を事前にいただいていたように思いますが、工場の案内係には全く伝わっていなかったようです。
- 荒川小学校での時間はもう少し取りたかったと感じました。時間が取れない場合はバスの中で見どころ（主に震災時の対応のポイント）を説明する等工夫が必要と考えました。
- 荒川小学校のような現場ではやはり語り部さんのお話が聞けると一層強い印象を受けると感じました。例えば博物館のイヤホンガイドのように語り部さんのお話をオンデマンドで聞けるような工夫（youtubeなど）も効果的かもしれないと考えました。
- MICE等の巡検の場合は、スルーガイドさんの役割は相対的に下がるため（寧ろ役割が中途半端でちょっとかわいそうだった）、相当な工夫が必要と感じました。

● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/19 (火) 訪日外国人向けモニタリングツアー 参加者：台湾・タイ・英語圏の通訳ガイド3名



● 参考：①エクスカーションプログラムの試行結果報告（個別プログラム結果）

○ 12/19（火）訪日外国人向けモニタリングツアー（参加者の声）

Q1.今回のエクスカーションプログラムの趣旨を理解することはできたか

- ・ ツアーのコンセプトは理解できたが、教育旅行に適しているので、一般向けにするにはPRの仕方をよく練った方がいいと思う。例えば空港にチラシやパンフレットを置けば、個人旅行の方にもリーチするかと思う。
- ・ コンセプトは理解できたが、門脇小学校以外では震災関係のお話が少なかった印象。
- ・ 日帰りのテーマ型ツアーは珍しいので、欧米人の少人数グループにセールスするイメージかと思う。
- ・ コンセプトそのものは理解できたが、県としてこのプログラムがインセンティブツアーなのか個人向けツアーなのかは検討した方がいいと思う。
- ・ 個人的には震災遺構を訪ねる個人旅行としてはよいかと思う。セールスの仕方が難しい印象。

Q2.プログラムを通して復興のストーリーを感じることはできたか

- ・ ストーリーはわかりやすい。順番やバランスもいい。最初にしっかりと震災を学んで、体験や水族館で気分的にも楽しく終われる。
- ・ もう少し震災復興の深い話（復興して今の姿になるまで）を聞いてみたかった。教育旅行に特化して語り部のお話を付けてもいいのではと思った。
- ・ プログラムの流れはわかりやすかった。

Q3.改善点

- ・ 門脇小学校の見学は2時間近くあったが、やや長く感じた。門脇小学校→日和山に繋げると、当時の様子がもっと伝わる気がする。
- ・ ハーバーハウスかなめでの体験、うみの杜水族館の時は震災関係のお話が少なかったので、ツアーコンセプトとの関連がわかりにくかった。
- ・ 水族館のバックヤードツアーはもっと時間を取ってもいいのではと思った。餌やりの様子を見学したが、これも体験できるとより良いかと思う。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム パネリスト等プロフィール



株式会社JTB総合研究所 主席研究員 兼
アドベンチャーツーリズム推進プロジェクト長
山下 真輝 氏

観光による地域活性化のための計画・戦略の策定、人材育成、旅行商品開発を専門とする。近年はスポーツツーリズム、アドベンチャーツーリズム分野の調査研究も手掛ける。内閣府地域活性化伝道師として全国の観光振興政策を支援。



公益財団法人宮城県観光連盟事務局次長
みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター センター長
三浦 均 氏

旅行会社で長年教育旅行業務に従事。2020年から現職にてSDGs探究学習プログラムに造成にかかり、宮城県への教育旅行誘致に向けて取り組んでいる。



株式会社みらい旅くらぶ 代表取締役
高谷 直嗣 氏

宮城県仙台市の旅行会社として、タイを中心としたインバウンド業務に強みを持ち、主にタイから東北に訪れる旅行者の受け入れを実施。タイの旅行会社の組織であるTTAA等に強いパイプがあり、双方向による交流の活性化に貢献したいと考えている。



株式会社たびむすび 代表取締役
稻葉 雅子 氏

地域に出向く学びの必要性を感じ「学びと旅の融合」をめざして旅行会社を設立、着地型観光やまちあるき観光を推進。また、東日本大震災後の復興と観光について学術研究を重ね、実践につなげている。



宮城県 復興・危機管理部
復興支援・伝承課 課長
樋口 保 氏

1993年宮城県入庁。観光課在籍中に東日本大震災発生。自宅が津波で被災し家族も犠牲に。震災当初、観光振興班長として観光復興等に従事。医療政策課、山元町副町長、観光プロモーション推進室などを経て、2023年4月より現職。宮城県名取市閑上生まれ。



<ファシリテーター>

株式会社JTB総合研究所 客員研究員
ファシリテーター 後藤 直哉 氏

地域における観光振興を目的とした各種プロジェクトやマーケティング事業など、外国人観光客を含む観光マーケティング・コンサルタントとして活動。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

● 来場者数 : 参加者数 : 56名

● 参加者のアンケート結果

Q. フォーラム全体の構成について (5段階評価 n=20 単位 : %)

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



(意見・理由)

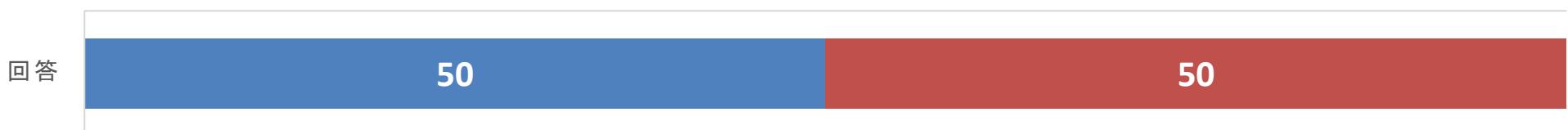
※一部誤字の修正等を実施。

- ガイドに焦点を当てたパネルディスカッションが有益でした
- 具体的な議論や松島高校の取り組みについて深く広く知ることができてよかったです。
- 立場の違う方々のお話しが聞けて勉強になりました。
- **復興ツーリズムの現状を理解することができた**
- **パネルディスカッションの時間が足りなかつた**ように感じる
- 個人旅行に対する誘客の取り組みと教育旅行や企業誘致への取り組み
- **登壇する人数やプログラムをもう少し絞って、ひとつひとつの話を長く聞きたかった。**
- 立場の異なる複数の視点からの、観光に対する意見を拝聴できたため
- 「新しい東北」として、**みやぎ復興ツーリズムの考えている方向性がとても分かりやすく理解出来ました。**
- 参考になることが多かったです。
- 復興ツーリズムの考え方を理解できたことに加え、松島高校観光科の活動を実例として知れたことは良かった。
- **旅行体験のストーリー性とスルーガイドの関係性、位置づけを良く理解出来た。**
- 震災復興という様々な活動がある中で、観光に関する取り組みについて、教育旅行とかあまり普段触れない事柄も含め勉強、気づきになったこと。
- 復興ツーリズムの具体的取組や課題を、事例をもとに詳細に把握できました。
- ストーリ性については興味深く聞かせてもらった
- **松島高校の取り組みや、インバウンドに携わっている方の生の声が聞けたことと、欧米で主流となっているスルーガイドについての知識が得られたため。**
- フォーラムのテーマ「未来につなぐ」、パネラーの皆さんのお話と松島高校観光科の生徒さんの取り組みから大きなヒントを得た。
- 同じ観光でも様々な立場の方の話が聞けて良かった
- **観光と震災復興についての関係性や現状および今後の在り方について、大変わかりやすくお話をいただきました**ことがその理由です。
- これからの宮城県の観光での集客を考える事ができた。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

Q.基調講演「宮城県における観光・震災復興の現状」について（5段階評価 n=20 単位：%）

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



(意見・理由)

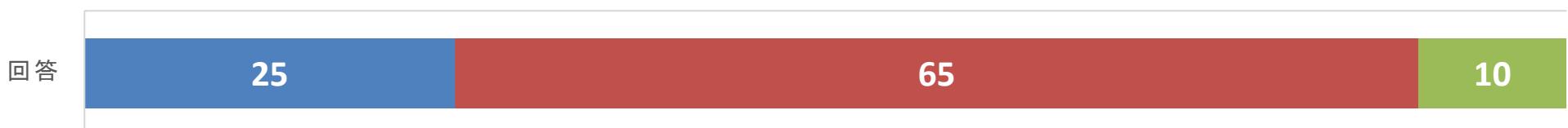
※一部誤字の修正等を実施。

- ・震災遺構を活用した持続的なコンテンツの磨き上げ、情報発信
- ・**宮城ならではの取り組みについて広く知ることができた。**
- ・沿岸部における賑わい創出や地域資源について
- ・**震災伝承の課題、現場の課題が理解できた**
- ・宮城県内の観光客入込数の半数以上が仙台市に集中 仙台市以外の沿岸地域への集客が必要と感じた
- ・様々なターゲットに向けた沿岸部訪問の促進、個人旅行での取り組みについて共感できた。
- ・**具体的に、これをしたらこうなった、というお話を聞きたかった。**
- ・県が教育旅行の受入に重きを置いていたこと。また講演者の語り口も落ち着いていてよかったです。
- ・教育旅行、企業向け研修の構築の考え方
- ・DMPを活用してのモデルコース造成などITを有効活用した取り組みも着実に進んでいると感じた。
- ・被災三県の復興状況に差があること。復興が進んでいるところは創生期へ移行しつつある。復興が進んでいるところは魅力発信により観光需要へ繋げ更なる復興へつなげていく。
- ・**前提としてのもう少し詳しい統計データの分析等を示していただくことで理解や検討が深まるのではないかと考えた。**
- ・背景となる統計数字や取り組みなど、もう皆さん既知の情報かも知れませんが、私にとっては当該フォーラムのちょうどいい入口になったと思います。
- ・樋口課長のお話がとても簡潔・明快で、宮城県における現状について短時間で全体把握することができました。
- ・風化対策
- ・様々な取り組みをしていることは分かったが、県内に住んでいるからなのか、ほとんど知らない取り組みばかりだった。
- ・**復興の現状、今後に向けて、観光事業者との関わりや期待している事など、事業者の役割を感じ取ることができた。**
- ・話し方がやわらかでわかりやすかった
- ・観光と震災復興についての現状を大変わかりやすくお話をいただきましたことがその理由です。特に、教育旅行の必要性や意義をお話させておりました点は、特に印象に残っております。
- ・復興における、県の実績など、具体的で分かりやすいものだった。また、これらの風化に対して考えている事も印象に残った。**もう少し県としてのこれから**のビジョンも知りたかった。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

Q.事業紹介「宮城県内エクスカーションプログラムについて」について（5段階評価 n=20 単位：%）

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



(意見・理由)

※一部誤字の修正等を実施。

- **今後のMICEに活用したい**
- 実際のモニターツアーの内容やどのような思いで取り組まれたかなどについて印象的だった。
- 無関心層への周知は難しい 無関心層は潜在顧客になりうるか気になる
- **ストーリー性は理解できるが、参加者の反応がよくわからなかった**
- 受け入れ先に制限はあるものの、産業復興を取り入れた旅行商品は今後必要を感じた。
- **プログラムAだけでも良いので、工程の選定理由やその経緯などを詳しく知りたかった。（結果の説明が多かった）**
- 時間の関係上最後のまとめのところがさらっとしていたので、前段よりもそちらの話に重きを置いてもらえるとよかったです。
- 復興を伝えつつ、牡蠣をテーマにして食文化を体感しているプログラム全体の考え方
- **エクスカーションプログラムの例をもとに色々な工夫が凝らされていることを知った。**
- 宮城県の観光地、景勝地の魅力的発信が必要。
- ツアーの一部に主催者と参加者の中間のような立場で関わったこともあり、良く理解できた部分もあるが、参加していない他のツアーについてはリアルなイメージを持ちにくかった。
- 教育旅行、企業研修等目的によっても裏側では色々大変なんだろうなと感じました。意外と拠点間の移動時間、距離って悩ましく、例えば大川小学校を行程に含めるのはなかなか難しかったり。
- 詳細事例に踏み込んで説明がありましたので、現場の状況がよく理解できました。
- 企業や教育旅行など向けに、ストーリーに沿って説明するスルーガイドが必要なことや、有効なことは分かったが、ここまでやると、**旅行というより「研修」という感じになり、よほど意識が高い人以外には、退屈に感じたり苦痛に感じることがありそうだ**と感じた。特に、行楽で学びや気づきを重要視する人は、欧米圏の“意識高い系”など非常に数が限られるのではないか。大多数の人は、企業研修でもアフターコンベンションツアーでも、「楽しいこと」「日頃のストレスからの解放」「非日常を味わう」「スリルのある体験」「何もしないのんびり旅」の方が満足度が高いように思う。むしろ、意識が高い個人旅行客向けに、スルーガイドを導入した高価格帯ツアーを設けるのはよさそうだと思った。
- 「スルーガイド」の役割や必要性を学ぶことができた。
- 具体的な内容が聞けて良かった
- 特に、観光の実務家のプロであります後藤さん、観光の起業家とともに、大変優れた学術面での高い業績のあります稻葉さんとの共同での大変優れた実践面での様子は、特に印象に残っております。
- ツアーの内容も重要ではありますが、そのコンセプトを伝えるスルーガイドの重要性を知った。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

Q.パネルディスカッションについて（5段階評価 n=20 単位：%）

■ 良く理解できた ■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった



(意見・理由)

※一部誤字の修正等を実施。

- ・ 様々なお立場の方からいろんなお話をまとめて聞くことができ、知見が広がった。また、松島高校の生徒さんが取り組まれたパンフレットが非常に印象的で、すごく良いパンフレットができたのではないかと思った。情景が浮かびやすく、共感的な内容があるので、ぜひ行ってみたいなという気持ちになった。多くのパンフレットを見たことがあります、今回は新鮮でした。
- ・ 高付加価値を付けるにはストーリーテリングが重要であること
- ・ スルーガイドの育成について、メリット・デメリット（地域ガイドの広域化と広域ガイドを一から育てる方法）を提示できたらよかったです
- ・ **ストーリーテリングの重要性を強く感じた**
- ・ 松島高校の取り組みに大変感銘を受け、参考になった
- ・ **パネラー同士のやり取りがあるともっと良かった。**
- ・ 以前から物語を伝えることの大切さが問われていたが、今はその伝え方にさらにひと工夫が必要であることを感じた。
- ・ **「ストーリーテリング」という考え方について大変勉強になりました。**
- ・ 観光資源の根底がそこに暮らす人々の生活文化であることを理解できた。
- ・ 山下様のアドベンチャーツアーに関する講演については非常に興味を持った
- ・ 業界としての課題なども聞けたので勉強になりました。
- ・ 松島高校の取り組みがよかったです。ばん馬競技大会とかまつばら山荘とか、単なる「映え」ではない自身の体験がよく伝わる媒体だと感じました。
- ・ 山下理事のお話で、復興ツーリズムが目指すべき方向性や課題が明らかになりましたように感じます。また復興ツーリズムのもつ可能性に期待したくなるような内容でした。
- ・ **スルーガイドの重要性は理解できた。ただし、生業として成立するには、恒常に多くの観光客が来て安定した給与が得られることなどの課題があるよう感じた。**
- ・ 弊社ではこれまで地域メンターとの連携、来訪者と地域の方々との交流を大切にしてきた事から、加えてストーリー性をもたせた「物語」を意識することを学ぶことができた。
- ・ これだけの有識者が一堂に会してのディスカッションはなかなかなく、鋭い考察がなされておりましたことが、特に印象に残っております。
- ・ 特に山下様の話のなかで、広島での外国人から言われたひとつ「復興した後、あなたは何をしたいのか？」が特に印象に残りました。この言葉は今の東北や日本全体に刺さる言葉ではないかと感じます。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

Q. 本フォーラムはこれからの業務の参考になったか（5段階評価 n=20 単位：%）

- 非常に参考になった ■ 参考になった ■ どちらともいえない ■ 参考にならなかった ■ 全く参考にならなかった



（自身の立場で、今後、「東北のものがたりを未来につなぐ」ために行うことができると思う取り組みや活動）

※一部誤字の修正等を実施。

- 震災復興の振り返りから、そこで生きている地域の生き様を伝えるだけではなく、有益な資源を未来志向で磨いていくこと
- 広域DMOの立場として、広域的に連携しながら面的に広がった活動を通して、東北全体を元気にできる仕事をしていきたいと思います。
- [松島高校さんのような若い学生世代への情報発信](#)
- 広範囲な団体、業者、個人のつながりも必要だが、連携可能なところから始めて、広げていくこともできると考える。
- 各関係機関との連携が最重要と考えます
- 東北の物語をもっと多くの方々に紹介していくこと
- 参勤交代のように、過疎地域に大学生が一定期間暮らすと単位がもらえる、などの活動を行い、過疎地域の暮らしや文化をそこに生活しながら記憶に残す（身体に記憶する）ことができないかと考えた。
- 地域事業者支援（伴走支援）
- 東北復興・創生推進室という組織で活動させて頂いております。私共で活動している概念や方向性として、合致していることも多く、大変勉強になりました。[特にストーリーテリングの考え方を改めて意識して活動方針に取り入れたいと感じております](#)。本日はありがとうございました。
- 地域の観光支援活動において観光プロモーションに取り組んでいる人たちの考え方を把握出来た。今後共同でのコンセプト創りの際に今回の学びを活かして行きたい。
- 東北の魅力的な観光地に合わせ震災遺構を多くの人に知つてもらう活動を写真や映像により広めたい。
- 学会や企業（転入者向け）研修等に特化したエクスカーション（巡検）の開発支援
- 直接の旅行業界ではありませんが、こういった取り組みがあるという情報を広げる一助になればと思います。
- 私の立場で実現できるかは分かりませんが、復興ツーリズムの第2段階というか、[新しい復興ツーリズムの形を模索できるといいなと思いました。内外の様々な視点を集約して、復興ツーリズムのもつ可能性を深耕できる場を模索していきたいと考えます。](#)
- 各地・各箇所での取組みを全国の旅行会社に広めていく
- 松島高校が取り組んだ「東北ワルツ＆インヴィテーション」の冊子は非常に興味深かったが、コロナ禍以降、こういったフリーペーパーを手に取る人は非常に少なくなった。[作っただけで満足せず、多くの人の目に触れるための広報手段の選定や宣伝費の確保にもっと重点を置いた方が良いように思う。また、この内容のウェブページを制作し、SNS等で拡散したり、英語・中国語の翻訳をつけて告知したりするなど、海外に向けた拡散も取り組んだ方が、より多くの観光客に情報が届く](#)と思った。予算を割いていただけるなら、テレビCMで告知することもできますし、番組で取り上げることもできる。SNS等で告知することもできる。最終的には、消費者のもとに情報が届かなければ、身内で作って満足するだけの取り組みになってしまって、非常にもったいないと感じた。
- 以前、古民家で地元食を提供するお母さんが笑顔で手を振る観光ポスターが話題になり、訪れる人が多くなった。地元の一人一人が主役、来訪者も地元の皆さんも共感できるその様な事業を展開することを目指す。
- ①震災復興を踏まえた教育旅行についての研究活動およびフィールドワークによる取り組みや活動 ②震災復興を踏まえた教育旅行についての提言および考察 ③高等学校や大学・短期大学・専門学校等の教育機関の震災復興を踏まえた観光教育の考察と提言
- 弊社の業務から考えると、国内外に向けた東北のPRをどのような切り口で発信していくか？が今後のキーワードになると思います。これからは今までのように万人に受ける「事」などは少なくなり、よりコアなものが必要になり、そこを伝える為の活動をしていきたいと思います。

● 参考：「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム 参加者アンケート

Q.このようなフォーラムにて取り上げてほしい観光に関するテーマ

※一部記載の省略、誤字修正等を実施。

- ・震災からの復興という明るいテーマ（震災を踏まえた上でのポジティブなコンテンツ）
- ・サイクリツーリズム（ガイド）漁師体験、アグリツーリズム
- ・オーバーツーリズムの対応
- ・複数年に渡って随意契約し、しっかりとガイドの育成や旅行商品の造成などを行っている自治体事例
(自治体の事業は単年度ばかりで、ガイドを育てたり、商品を複数年に渡りブラッシュアップするような仕組みが成立しにくいことが問題。また、年度の事業なのでモニターツアーが秋冬に偏ることに加え、春夏の素材をアカイブするようなタイミングがない。観光領域こそ、年度を跨いで、複数年に渡りブラッシュアップしていくような事業を行わないと、ガイドも商品も質が保たれないと感じる。)
- ・他県と連動した観光（福島県の浜通り地区などと連動した観光など）の考え方
- ・震災伝承分野での体験価値
- ・ロングトレイルの拡大・充実化。みちのく潮風トレイル「お遍路さん」並みにする振興策
- ・旅行者に対する防災の向上・安心な旅の受け入れができるインフラ整備
- ・位置情報を活用したオンデマンド「語りべ」配信コンテンツ等の製作
- ・スキル人材の副業活用による地方創生の事例など
- ・旅行会社として取組める付加価値提供
- ・世界農業遺産をテーマに観光を考える
- ・二次交通問題
- ・復興ツーリズムと地域貢献を視野に入れた観光人材および復興人材の育成
- ・「高付加価値」な観光や旅行をより深掘りした内容
- ・宮城の新しい魅力の創作として、これからはどのような「物」や「事」が売れるのか

● 参考：宮城県での過年度の取組

参考：令和5年5月25日
第1回意見交換会資料1

- 宮城県の近年の取組では、観光まちづくりや教育旅行、エクスカーションプログラムなど、**観光分野に着目して取組を実施**
- 令和4年度の意見交換会・実践の場では、2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据え、**宮城県沿岸地域におけるエクスカーションプログラムを検討**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
テーマ	地域コミュニティづくり、ソーシャルセクターのあり方	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	持続可能な地域文化の継承と磨き上げ
実践の場	連携型交流会 in 宮城「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」（仙台市） ソーシャルセクター3団体による「新しい東北」創出に向けたビジネスモデルやサービス等をピッチ形式で議論	「南三陸をつなげる30人」（南三陸町） 南三陸町内外の約30人が集まりファイヤーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討	「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市） 東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となつて観光まちづくりを行なう枠組みを構築）	「みやぎ復興官民連携フォーラム～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」 東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討	「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」（石巻市） 多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ利活用について協議。 これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として開催。	「宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー」 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムとともに、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。